

令和二年度 近畿税理士会会長賞

「国と国とを結ぶ税」

奈良教育大学付属中学校 三年 山本 更紗

みなさんは税と聞いてどんなことをイメージしますか。私は税に対してあまり良いイメージを持っていませんでした。もちろん、自分が学校へ行ったり安心して暮らしたりできているのは税のおかげだということは知っています。それでも、税の大切さをはっきりと実感できずにいました。しかし、ある体験をきっかけにその考えが変わりました。

ベトナムへ家族と旅行で行った時のことです。タクシーに乗って運転手と話していると、日本の話になりました。今、ベトナムの地下鉄をつくるのに日本が協力していて、もうすぐ開通されるそうだという話です。私はそのときの運転手の嬉しそうな顔が忘れられません。ベトナムでは人口増加とバイクや自動車の普及によって、交通渋滞や大気汚染が問題になっています。このような問題の解決が地下鉄に期待されていたのです。そのとき私はとても誇らしくなりました。あとから調べてみると、それにはODAという組織が関わっていて、税金が使われているそうです。ODAは発展途上国の経済や社会、福祉の発展に役立てるために政府が行っている経済協力のことです。世界の様々な地域の発展途上国に技術や資金、人材育成などの協力をしています。これに対して否定的な意見も少なくないそうです。しかし、これによって日本への信頼が高まり、利益につながります。例えば、東日本大震災のときは発展途上国をふくむ多くの国が日本を支援することにつながりました。税は国と国とを結ぶ役割もあるのです。

そのようなことから税の大切さを学び、税の在り方を考えてみました。日本は少子高齢社会の問題を抱え、二〇五〇年には六五歳以上の高齢者一人あたり一・三人の働き手で支えなければなくなると言われています。このままでは働き手の負担が増え、生活を支えるのは難しくなるでしょう。そこで、誰もが納得できる公平な考え方が必要です。

また、税への理解を深めることがより良い社会につながります。みなさんも税の大切さは知っているはずですが、それでも税に対して否定的な意見が多いのは、税について理解し、どのようなところで使われているかを知らないからだと思います。特に私が税の大切さを知るきっかけとなった経済協力は、見えにくいところにあるので否定的な意見が多いです。だから、一人一人が税について知り、在り方を考えていくことがこれからの社会に必要なだと思います。